



食べ物を無駄にすることは水を無駄にすることもある

「水の生産性を上げ廃棄食料を削減すれば貧困に苦しむ人の食事を改善し、増大する人口に対しても食料を確保できる」とストックホルム国際水会議でランドクヴィスト教授が発表した。

世界で食料の生産に使われている水の半分が浪費あるいは廃棄されている可能性があり、この防止が必要だという。

世界の高まる食糧危機は、食べ物の廃棄と過剰摂取によって悪化している。

ストックホルム国際水協会（S I W I）のジャン・ランドクヴィスト教授は「世界で日々飢餓に苦しむ人は8億5,000万を数えるが、肥満は



国際水会議が開かれたストックホルムから食料と水についての報告。= I P S

12億人以上にのぼる」と指摘。

「水の生産性を向上し、廃棄される食料を削減することで、貧困に苦しむ人の食事を改善し、増大する人口に対しても食料を確保できるように」と、8月21日、ストックホルム国際水会議の際に記者団に語った。

S I W I が国連食糧農業機関（F A O）と国際水管理研究所（I W M I）と共同で作成した報告書『Saving Water』（節水）によれば、米国では家庭だけで食品の30%もが捨てられている。

報告書は、食べ物を無駄にすることは水を無駄にすることもであると論じている。食料の栽培と加工には大量の水が使われているからだ。

食品や消費財の生産・輸出入に要した水の量を推計する「バーチャルウォーター（仮想水）」の概念の発案者で、今年のストックホルム水大賞を受賞したロンドンのキングス・カレッジのジョン・アンソニー・アラン教授は、人間は飲料水や入浴にだけでなく食料品を消費する時も水を消費していると説く。

I W M I の研究員シャロット・デ・フレイチユア氏は、世界で食料の生産に使われている水の半分が浪費あるいは廃棄されている可能性があるとし、「こうした浪費を防止し、水の生産性を向上すれば、農民、企業、生態系そして飢えに苦しむ世界の人々みなにとって利益のあるワイン・ウインの機会がもたらされる」と訴える。

また、世界自然保護基金（W W F）も、英国の食料および繊維の消費が世界の水資源に及ぼす影響を調査した報告書『UK Water Footprint』（英国のウォーターフットプリント）を発表している。（ウォーターフットプリントとは、食料等の輸入に伴って輸出国で実際に消費された水資源量のこと。）

【ストックホルム I P S タリフ・デーレン】

【8月21日】



業務停止命令：お年寄りに強引に浄水器を訪問販売

お年寄りに強引な浄水器の訪問販売を繰り返していたなどとして都は20日、豊島区東池袋1の「コレクト」（高木淳社長）に対し、特定商取引法に基づく業務停止命令を出した。

東京都消費生活部によると、同社の従業員らは浄水器の販売目的を隠してお年寄りの自宅などを訪問。「こんな浄水器を使っていたらがんになる」とうそを言って勧誘、勝手に浄水器を取り付け、契約していた。

都には06～08年度で計97件の相談が寄せられ、平均契約額は57万4000円、最高は175万円。88歳に契約させたケースもあった。

高木社長ら幹部2人は、アルカリイオン整水器の訪問販売を巡って経済産業省から06年10月に業務停止命令を受けた「サンライズコーポレーション」（大阪市北区）の元従業員という。

【2008年8月21日毎日新聞】